

【案件概要】

アジュマニ県ベッサ・アルヒッジ中高等学校における理科実験棟建設計画

1. 計画の概要

被供与団体	ベッサ・アルヒッジ中高等学校
供与額	77,153米ドル
署名者	ジョセフィン・ケリキ・ママ(校長)
計画名	アジュマニ県ベッサ・アルヒッジ中高等学校における理科実験棟建設計画
実施地	アジュマニ県(ウガンダ北部)
供与内容	理科実験棟(348.23㎡;化学実験室・生物実験室・物理実験室の3室)及び実験棟用の家具
贈与契約署名日	2016年1月27日

ウガンダ北部アジュマニ県に位置するベッサ・アルヒッジ中高等学校は2004年に設立されたコミュニティ支援中高等学校であり、現在、中学1年から4年までの生徒338人(男子252人、女子86人)及び校長を含む教員21人が在籍しています。同校には、一般教室を改築した理科実験室(81.56㎡、一度に21人収容可、椅子21脚)が1室しかない上、教育省の定める理科実験室の安全基準を満たしておらず、倉庫もないため、理科全科目の実験器具や薬品が同理科実験室のテーブルの下に保管されており、安全性が確保されていない状況です。また、理科実験室がとても狭いため1クラス平均84人の同校では、1つの授業を3シフト制にし、1つのグループが実験をしている最中は他の生徒は理科実験室外で待つため授業の効率が悪くなっています。本計画では、化学・生物・物理科目用の理科実験棟を建設し、理科実験棟用家具を整備することで、教育省の基準を満たし安全性を確保した適切な理科教育環境を提供します。

2. 贈与契約署名式

2016年1月27日、在ウガンダ日本国大使館において、藤田順三大使とジョセフィン・ケリキ・ママ校長の間で贈与契約が署名されました。